



● 今矢賢一さん ブルータグ株式会社 代表取締役社長

聞き手/本誌編集長 福西七重

## 世界を目指すアスリートたちを応援したい。 そしてぼく自身も、 ビジネスアスリートであり続けたい

スポーツ振興とアスリート支援事業を展開するブルータグ株式会社。インターネットを介し、アスリート・一般消費者・スポンサー企業を結び付ける新しいスポーツビジネスが、今、注目されている。社長の今矢賢一さんに、創立の背景、現状と課題、そして展望についてうかがった。

### 「起業」を決意させたもの

**福西** 一〇〇年に一度の不景気、金融危機といわれる中、企業がスポンサーから撤退するという話も多いですが、あえてスポーツビジネスを起業した背景に何があったのでしょうか。

**今矢** 「インターネット」、そして「アテネオリンピック」ですね。ぼくは、一四歳のときに家族でオーストラリアに移住したのですが、オーストラ

リアはスポーツ大国なんです。ぼくも大学ではスポーツ・レジャースタディーズを専攻し、二〇歳過ぎまでセミプロとして地元のクラブチームでサッカーをしていました。大学卒業後、シドニーの会社に就職し、転勤で日本に帰国したのが一九九九年。インターネットビジネスが急速に広がり、多くのネットベンチャーが起業し始めた頃です。

そして、そのネットビジネスとスポーツがぼくの中で結び付いたのが、アテネオリンピックだったのです。  
**福西** アテネオリンピックといえば、日本が過去最高数の金メダルを獲得したオリンピックですね。

**今矢** そうです。ですが、このオリンピック選手たちの華々しい活躍の裏に、厳しい競技環境があることをご存じでしょうか。日本代表選手で